

わかりやすい合図のルール制定

重機災害ゼロに向けて

株式会社 京葉興業 改質固化処理プラント
業界・業種：産業廃棄物処理業
従業員規模：25名
地 域：東京都

背景(課題・ニーズ)

重機による事故は、大型の機械であるが故、重大事故に繋がる可能性が高い。そのため、重機の操縦者と作業員の連携は非常に大切である。以前、連携ミスによりヒヤリハットが発生したため、重大事故に繋がらないよう、二者間における合図のルール制定を行った。

取組内容

ヒヤリハットの概要(全員で行った。)

バックホウのフックでフレコンバッグを吊って下ろした後、まだフレコンバッグがフックから外れていないのにアームを動かしてしまい、引きずってしまった。



※検証時の写真

検証

重機の操縦者からは、フックの部分と作業員が見えにくいことが分かった。今後はバケットの死角にならない位置で、フックから外れた後に右の合図を行う。



合図

OK(両手で○を作る) 問題ない場合
NO(両手で×を作る) 異常がある場合



やってみての効果

片手を振るような合図だけであると、OKかNOかわかりにくい場合があるため、○×を作ることで視覚的にわかりやすくなった。実際に運用してみたところ、操縦者と作業員の間で「今何をすべきか」が即座に共有できるようになり、ヒヤリハットの再発防止に大きく貢献した。

今後の目標・展望

他の作業工程にも合図ルールを展開：今回の成功を活かして、他の重機作業や搬出入作業にも視覚的な合図を導入し、全体の安全レベルを底上げする。
定期的な安全研修の実施：ヒヤリハット事例を共有しながら、合図の確認や死角の理解を深める研修を定期的に行うことで、習慣化を図る。